

令和4年度旭川未来会議2030環境分野 第2回分野別会議 会議録

1 開催日時 令和4年8月8日(月) 午後6時30分から午後8時30分まで

2 開催場所 旭川市第二庁舎6階 会議室
(旭川市7条通10丁目)

3 出席者(参加者)

朝倉 優美香, 鹿島 浩平, 菊池 佳, 久保 澄佳, 佐藤 靖隆,
中村 和子, 橋口 新平, 藤山 大樹, 吉田 小夏

※敬称略, 五十音順

※北沢 侑也は欠席

4 出席者(市側)

(運営事務局)

環境部 富岡部長, 松野郷次長

環境総務課 安富主幹, 宮田環境保全係主査, 本多環境保全係主査

廃棄物政策課 小池課長

(統括事務局ほか)

広報広聴課 山本広聴係長, 乙坂広聴係主査

政策調整課 廣岡主査

5 会議の公開・非公開 公開

6 傍聴者 なし

7 意見交換

※進行役: 菊池 佳

(1) 議題「ゼロカーボンシティ旭川の実現と食品ロスの削減等について」

※前回の会議で, 参加者全員により「環境分野が考える2030年の旭川のあるべき姿」について, アイデアを付箋に記入する方法によりアイデア出しを行い, 出されたアイデアを,

(A) 食品ロス, (B) ごみ・廃棄物分野, (C) 交通,

(D) エネルギー・ゼロカーボン, (E) 自然環境,

(F) 環境教育, (G) その他

の7つの分野に分類し, 参加者を

(A) 食品ロス, (B) ごみ・廃棄物分野, (C) 交通,

の3人ずつの3つのグループに分け, それぞれのグループが検討を行い,

その後, それぞれのグループから次のとおり発表を行い, それに対して,

グループ以外の参加者から意見を聴取した。

※今回の会議は、前回の会議の続きであり、参加者を

(D) エネルギー・ゼロカーボン, (E) 自然環境, (F) 環境教育,
の3人ずつの3つのグループに分け、それぞれのグループが検討を行い、
その後、それぞれのグループから次のとおり発表を行い、それに対して、
グループ以外の参加者から意見を聴取した。

※発表内容

D エネルギー・ゼロカーボン

(あるべき姿)

- ① 地産地消エネルギー会社を設立する
- ② 公共施設の脱灯油, 脱石油を図る
- ③ 公用車のEV化を図る

(考えた理由)

- ① 旭川で再生可能エネルギーを生み出しCO₂排出の少ないエネルギーを使う
- ② 灯油, 石油よりもCO₂排出量が少ないガス, 電気への転換を進める
- ③ 公用車をEV化すればEVが広く市民に浸透する

(その他の人からの意見)

- ペレットストーブを推進するのが良い

(考えた理由)

- ・ 地産地消のエネルギーである

(その他の人からの意見)

- ゼロカーボン特区を作りテストしてみてはどうか

(考えた理由)

- ・ 公共施設の実施だけではゼロカーボンの達成は難しい

(その他の人からの意見)

- 省エネに関し、店舗などでの取組を強化したほうがよいと思う

(考えた理由)

- ・ 家庭での省エネは既に充分取り組んでおり、これ以上困難であると思う

E 自然環境

(あるべき姿)

- ① 自然と人の集まる，森のようなまち
- ② 一人一人が野生生物との関係性を考えるまち
- ③ 100年後を見据えた森林・河川などの開発

(考えた理由)

- ① 北彩都のように自然を多くし，買物公園に芝生のルートをつくと子どもが集まり，ペットの散歩ルートにもなり，ヒートアイランド対策にもなる
- ② 野生生物と調和して生きることができる
- ③ 自然と調和して生きることができる

(その他の人からの意見)

- ヒグマに関して，緩衝地帯の形成が必要である

(考えた理由)

- ・ 緩衝地帯があればヒグマの市中心部への侵入を防止できる

F 環境教育

(あるべき姿)

- ① 実生活に寄り添った体験型学習を行う
- ② SNSや街頭モニターでの情報発信を強化する

(考えた理由)

- ① ごみ処理場の見学など実生活との関連性を学ぶことにより意識付けが図られ，自分たちの環境を守ろうと行動する意欲が出る。
- ② 視覚的に情報を流すことにより日常的に環境に関心をもつ

(その他の人からの意見)

- 市民全員総エコプレーヤーを目指すとういと思う

(考えた理由)

- ・ 子どもから大人まで全員がエコにとりくむことが重要